

## 【特別支援学級・学校の部・優秀賞】

### 戦争と平和について

名護特別支援学校中学部

三年 宮城 梨沙

五月十五日。沖縄が日本に復帰した日です。

今年で三十九年目をむかえますが、今年もまた私は、図書館で本を借りました。戦争について書かれた本を読みました。また新聞も読みました。私はいつも戦争について勉強したいと思っています。

なぜなら、平和が好きだからです。みんなと仲良くくらすことは、いいことだと思っていますからです。

沖縄戦では、たくさんの方がなくなりました。こわいぐらいにたくさんの方が死にました。かぞえきれないほどのアメリカ軍がやってきて、日本人をころしました。沖縄の人は女も子どももころされました。それだけではありません。戦争はしぜんと家をこわしました。すむところがなくなった人たちは、おふるにもはいれないし、食べることもできないし、お水をのむこともできませんでした。もちろん、でんきもなかったので、毎日暗い中で生活していました。そして子どもたちは、友だちとあそぶこともできませんでした。テレビもなく、ゲームもなく、なんのたのしみもありませんでした。

私は先生に、「アンネのきぼう」という紙しばいを読んでもらいました。ドイツでは、ユダヤ人の子どもをつかまえ、死ぬまではたらかせていたそうです。また、はたらけなくなった子どもたちは、どくガス室にいれられてころされたそうです。私と同じ十四才の子どもが、つぎつぎにころされていったのです。大人が子どもを人間あつかいしないところ

すなんて大まちがいです。こんなことした大人はきつと、大きな大きなバチがあたると思っています。好きなあそびもしないで死んでいった子どもたち。何が幸せだったのかとかわいそうになりました。お父さん、お母さんともはなればなれにされて、ひとりぼっちにされた子どもたちは、こわくて、おそろしくて、ブルブルふるえていたことでしょう。

また、広島県には、おそろしいげんしばくだんがおとされました。そしてかぞえきれないほど、たくさんの方が死にました。びょういんもケガ人でいっぱいになり、ますいもなく、イタイイタイと言いながら死んでいきました。戦争はともさんくくたと思えました。

私は今、中学三年生。毎日学校に行つて勉強しています。お友だちとおしゃべりしたり、ゲームをしたりしてあそんでいます。おいしい給食をおなかいっぱい食べています。そばには、いつもお父さんとお母さんがいます。カゼをひいたときも、ずっと私のそばについてくれます。休みの日はよくいっしょに、大好きなえいを見に行きます。家ぞくみんながそろって食べるごはんは、とてもおいしいです。家ぞくがいるから私は幸せです。友だちがいるから、毎日がたのしいです。ときどき私は、お友だちとケンカをすることがあります。そんな時、お母さんからよく言われることは、人と人がケンカをすることはいけないことだということです。小さなケンカが大きな戦争につながるんだということも教えられました。

私は、お父さんやお母さんとはケンカをしたことはありません。お父さん、お母さんが大好きだからです。これからは、お友だちひとりひとりだいじにし、大好きになりたいと思います。世界中の国々も、ひとつひとつの

国をだいじにし、仲良くしていけたらと思います。